

菊屋家邸宅の書斎は書院と呼ばれ、重要人物を歓迎したり、くつろいでもらうための憩いの場所として 1651 年頃に建てられた。現在の構造は 20 世紀末に再建された。書院からは日本の伝統的な庭である枯山水（乾燥造園）の庭園が望める。

庭の中心に大きくて平らな籠置き石があり、その上に籠や輿をおろした。訪問者にとって籠や輿は便利で、まず御成門から入って、庭の左側に入り、縁側から書院に入った。この縁側は贅沢な樺板が敷かれており、下級町人は使用することが認められていなかった。縁側は普段は杉板で覆われていたが、重要な訪問者の来訪時には杉板は取り除かれ、樺板が現れるのである。

庭の植物は、一年を通して美しさを提供できるように厳選されていた。秋の美しい紅葉と、季節に関係なく緑豊かな松が植えられている。庭石は、書院に座っている訪問者の目に庭が実際よりも大きく写るように配置されている。